

丸善株式會社定款

明治二十六年四月十七日改正届出

明治二十六年十一月二十九日訂正届出定款(訂正分のみ)

第一條

本社ノ組織ハ株式會社ニシテ名號ハ丸善株式會社ト稱ス

第二條

本社ノ本店ハ東京府東京市日本橋區通三丁目拾四番地拾五番地ニ設置ス

第三條

本社ハ外國商品ヲ輸入シテ内地ニ販賣シ内國商品ヲ輸出シテ外國ニ販賣シ且ツ内外ノ商品ヲ本店及支店ニ於テ販賣スルヲ以テ目的トナス

第四條

本社ノ株金ハ總額貳拾萬圓ト定メ之ヲ貳千株ニ分割シ壹株ノ金額ヲ百圓トナス

第五條

株金總額貳拾萬圓ノ内拾萬圓ヲ一時ニ拂込ミ尙拾萬圓ハ營業上ノ實況ニ由リ更ニ株主總會ノ議決ヲ以テ拂込ノ方法及ヒ時期ヲ定ムヘシ

第五條

株金總額貳拾萬圓ノ内拾萬圓ヲ一時ニ拂込ミ尙拾萬圓ハ來ル明治三十一年一月十日ヨリ同三十五年十二月二十日迄年々貳萬圓宛拂込ムモノトス其ノ拂込月日ハ明治三十年十一月以前に告知スヘシ但シ營業ノ都合ニ依リ總會ノ議決ヲ以テ拂込ノ期節ヲ伸縮増減

第六條

本社ノ資本金ハ營業上ノ都合ニヨリ株主總會ノ議決ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得

第七條

本社ハ資本増加ノ爲メ株主總會ノ議決ヲ以テ社債券ヲ發行スルコトヲ得

此社債券ハ必ス記名ノモノニシテ其總金額及ヒ券面金額ハ商法第二百六條ノ規定ニ準據スヘシ

第八條

何人タリモ〔但外國人ヲ除ク〕本社ノ定款ヲ守リ其株式ヲ所有シ本社ノ株主牒ニ其姓名ヲ登録スルモノハ本社ノ株主タルヘシ

第九條

本社ノ株主ハ其所有ノ株式ヲ賣渡シ若クハ讓渡サント欲スルモハ本社ニ於テ定ムル所ノ書式ニ依リ買受人若クハ讓受人ノ連署シタル書面ヲ本社ニ差出スヘシ本社ハ相當ノ手續ヲナシ其株券ノ裏面ニ專務取締役及ヒ支配人記名調印ノ上之ヲ買受人若クハ讓受人ニ交付スヘシ此手續ヲ經サル間ハ現ニ株主名簿ノ記名人ヲ以テ其所  
有者ト見做スヘシ

第十條

本社ノ株券ヲ毀損又ハ汚穢シタル等ノ故ヲ以テ引換ヲ求ムルトキハ其事由ヲ明記シタル書面ヲ本社ニ差出スヘシ又燒亡若クハ紛失シタル等ノ故ヲ以テ新株券ノ交付ヲ求ムルキハ其事由ヲ明記シタル書面ニ二名以上ノ證人連署ノ上本社ニ差出スヘシ然ルキハ本社ハ其旨ヲ新聞紙ニ廣告ノ上請求ノ日ヨリ六十日ヲ經テ新株券ヲ交付スヘシ

毀損又ハ汚穢等ノ分モ其要所ヲ缺損シタルモノハ燒亡紛失等ノ例ニ依ル

但シ本文ノ場合ニ於テハ壹株ニ付金拾錢ノ手數料ヲ依頼人ヨリ本社ニ拂フヘシ又新聞紙廣告料モ依頼人ノ負擔トス

#### 第十一條

本社ハ存在時期ヲ定限セス商法第二百三十條ノ諸件ニ遭遇スルニアラサレハ永久繼續スルモノトス

#### 第十二條

株主通常總會ハ毎年二月取締役ノ定ムル日時及ヒ場所ニ於テ舉行スヘシ

通常總會ニ於テハ前年度ノ計算書財産目錄貸借對照表事業報告書及ヒ利息又ハ配當金ノ分配案ヲ會席ニ提出シテ其議決ヲナスヘシ

取締役ノ提出スル書類ハ監査役調査ノ上之ニ捺印スルモノトス

#### 第十二條

株主通常總會ハ毎年二月取締役ノ定ムル日時及ヒ場所ニ於テ舉行スヘシ通常總會ニ於テハ前年度ノ計算報告及ヒ配當金ノ分配案ヲ會席ニ提出シテ其議決ヲナスヘシ取締役ノ提出スル書類ハ監査役調査ノ上之ニ捺印スルモノトス

但シ會日ヨリ少クモ七日以前ニ會議ノ目的及事項ヲ示シテ招集狀ヲ發スヘシ

### 第十三條

取締役及ヒ監査役ハ何時ニテモ必要ナリト思考スル場合ニハ株主臨時總會ヲ召集スルコトヲ得

臨時總會ノ召集ハ少クモ會日ヨリ十四日前ニ其會議ノ目的及事項ヲ示シタル召集狀ヲ發スヘシ

### 第十四條

總株金ノ五分ノ一以上及ヒ總人員ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ヨリ會議ノ目的ヲ明記セル書面ヲ以テ臨時總會ヲ要求スルキハ會社ハ其要求ニ應セサルコトヲ得ス

### 第十五條

取締役ニ於テ株主ヨリ臨時總會召集ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其召集ノ手續ヲ爲サ、レハ株主ハ自ラ召集スルコトヲ得

### 第十六條

臨時總會ハ少クモ總株金ノ半數以上及ヒ總人員ノ半數以上ノ株主ノ出席ヲ要ス若シ此定數ニ滿タサルキハ假ニ議決ヲ爲シ再ヒ總會ヲ召集スヘシ其通知ニハ第一總會ノ議決ヲ明記シ且ツ第二ノ總會ニ於テ出席株主ノ多數ヲ以テ第一總會ノ議決ヲ認可シタルキハ之ヲ有効トナスヘキ旨ヲ明告スヘシ

### 第十七條

通常總會及ヒ臨時總會ノ議事ハ出席株主ノ議決權過半數ノ同意ヲ

### 第十四條

總株金ノ五分ノ一以上ニ當タル株主ヨリ會議ノ目的ヲ明記セル書面ヲ以テ臨時總會ヲ要求スルキハ會社ハ其要求ニ應セサルコトヲ得ス

### 第十六條

臨時總會ハ少クモ總株金ノ半數以上及ヒ總人員ノ半數以上ノ株主ノ出席ヲ要ス若シ此定數ニ滿タサルキハ假ニ議決ヲナシ再ヒ總會ヲ召集スヘシ其通知ニハ第一總會ノ議決ヲ明記シ且ツ第二ノ總會ニ於テ出席株主議決權ノ多數ヲ以テ第一總會ノ議決ヲ認可シタルキハ之ヲ有効トナスヘキ旨ヲ明告スヘシ

以テ決ス若シ可否同數ナレハ議長之ヲ決ス

#### 第十八條

株主ノ議決權ハ其所持株拾株マテハ壹株毎ニ壹個トシ拾壹株以上百株マテハ貳株毎ニ壹個トシ百壹株以上ハ五株毎ニ壹個ト定ム

#### 第十九條

通常總會及ヒ臨時總會ニ於テ株主自ラ出席スル能ハサルキハ代人ヲシテ發言投票ヲナサシムルコトヲ得ヘシト雖<sup>レ</sup>其代人ハ必ス本社ノ株主タルモノニ限ル

但シ代人ヲシテ出席セシムル場合ニハ本社ニ於テ定ムル所ノ書式ニ依リタル代理委任狀ヲ交付スヘシ

#### 第二十條

通常總會及ヒ臨時總會ノ議長ハ專務取締役之ニ任スヘシ若シ專務取締役出席セサルハ他ノ取締役代テ議長トナルヘシ若シ又取締役一名モ出席セサルキハ株主中一名ヲ推シテ議長トナスヘシ

#### 第二十一條

議長ハ會議ヲ延期シ會場ヲ轉スルコトヲ得但延期會ニ於テハ最初ノ總會ニ於テ議了セサリシ事件ノ外他ノ事件ヲ議スルコトヲ得ス

#### 第二十二條

株主自ラ招集シタル臨時總會ニ於テハ開會ノ時刻ヨリ一時間ヲ過ルモ定數ノ株主出席セサルトキハ總會ヲ解散シ其議案ヲ廢案トナ

・第二十二條削除ス以下順次繰上ル

スヘシ

第二十三條

通常總會及ヒ臨時總會ニ於ケル議事ノ要領ハ總會議事録ニ記錄シ  
議長之ニ檢印シテ本社ニ保存スヘシ若シ議長事故アリテ檢印スル  
能ハサルモハ取締役代テ檢印スヘシ

第二十四條

本社ハ本社ノ株式三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ三名以上六名  
以下ノ取締役及ヒ二名以上四名以下ノ監査役ヲ撰定スヘシ

第二十五條

取締役ノ在職年限ハ三ヶ年ト定メ監査役ノ在職年限ハ二ヶ年ト定  
ム何レモ時期滿了ノ後再撰スルモ妨ケナシ

第二十六條

取締役在職年限中ハ其所有ノ株券三拾枚ヲ融通ヲ禁スル爲メ封印  
シテ本社ニ預リ置クヘシ

第二十七條

左ノ件々ハ株主ノ議決ヲ要セス取締役ニ於テ適宜處分スルヲ得

- 一 會社ノ株金積立金及ヒ別途積立金ヲ確實ノ方法ヲ以テ運轉  
使用スル事

- 二 會社ニ關スル訴訟ニ於テ其原告若クハ被告トナリ又ハ之ヲ

中裁ニ付シ又ハ之ヲ棄却シ又ハ之ヲ願下ル事

三 各地ニ支店ヲ設ケ出張店ヲ置キ又ハ代理店ヲ設クル事

第二十八條

取締役ハ其互撰ヲ以テ專務取締役又ハ社長一名ヲ撰定スヘシ

第二十九條

取締役及監査役ノ給料又ハ報酬ニ關スルコトハ株主總會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

支配人ノ給料ハ專務取締役及ビ各支配人ノ意見ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ支配人以下ノ給料ハ其店支配人ノ意見ヲ以テ專務取締役ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

第三十條

取締役又ハ監査役ノ中不時ニ缺員ヲ生スルキハ取締役ハ取締役ノ見込ヲ以テシ監査役ハ監査役ノ見込ヲ以テ假ニ相當ノ補缺員ヲ撰舉シ次回ノ株主總會ニ於テ其認許ヲ受クヘシ

但其認許ヲ得タル者ト雖モ先任者ノ在職期限ヲ越テ其職ヲ保ツコトヲ得ス

第三十一條

本社ハ毎年一月ヨリ十二月マテヲ以テ會計年度ト定メ毎年度ノ末ニ於テ決算ヲナスモノトス

第三十二條

毎年度決算期ノ前十五日間本社株券ノ名義書換ヲ停止ス

第三十三條

純益金ノ配當割合ハ左ノ如シ

純益金ノ二十分ノ一 積立金

同 二十分ノ一 別途積立金

同 二十分ノ一 役員賞與配當金

同 二十分ノ十七 株主配當金

但シ營業ノ狀況ニ由リ積立金ヲ除ク外ハ總會ノ議決ヲ以テ臨時之ヲ變更シ又ハ永久之ヲ改正スルコトヲ得

第三十四條

此定款ハ株主臨時總會ノ議決ヲ以テ變更シ又ハ増減スルコトヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ東京府廳ノ承認ヲ受クルモノトス

右條々衆議ノ上議決セシ證トシテ左ニ記名調印致候也

丸善商社株主 大塚嘉藏

同 杉本正徳

同 須賀磯八

同 鈴木幾作

同 中村道太

同 栗田照

同 前田倉次

・第三十四條但書削除ス



同 同

小柳津要人  
竹内半左衛門  
金澤林平  
早矢仕有的  
勝田兼  
石川仙  
三次半之助  
平山甚太  
永井松右衛門  
服部源助  
金澤末吉  
大塚熊吉  
齋藤定四郎  
鬼頭良介  
金澤井吉  
竹本廉二  
伊村克巳  
久野永太郎  
小野正兵衛  
松下鐵三郎

〔注〕 丸善株式會社定款 明治二十六年十一月（写）

明治二十六年七月一日の商法実施に当り、同年三月二十四日臨時株主總會に於て定款改正を決議、同年四月十七日改正定款（全三十四條）を東京府庁に届出、同年十一月十四日認可を受けた。しかし農商務省より不備の個所の指摘があつたため、訂正條項を修正して十一月二十九日東京府庁に届出た。

ここでは上段に四月十七日の改正届出定款全條を、下段に訂正條文のみを取めた。

明治二十六年以後現在に至るまで度々定款の改正を行ったが、ここでは、明治三十六年八月、大正七年一月、昭和二十二年七月、昭和二十六年九月、昭和四十四年三月の各改正定款及び昭和五十二年十月二十八日現在の定款全文を取めた。

## 丸善株式會社定款

明治三十六年八月改正

### 第一章 總則

第一條 當會社ハ丸善株式會社ト稱ス

第二條 當會社ハ圖書文房具西洋小間物其他雜貨ヲ販賣スルヲ以テ目的トス

第三條 當會社ハ本店ヲ東京市ニ支店ヲ大阪市ニ設置ス

第四條 當會社ノ資本金額ハ貳拾萬圓トス

第五條 當會社ハ存立時期ヲ定限セス

第六條 當會社ノ公告ハ本店所在地ノ裁判所カ登記事項ノ公告ヲ爲ス新聞紙ニ公告スベシ

### 第二章 株式

第七條 當會社ノ株式ハ貳千株ニ分チ壹株ノ金額ヲ百圓トス

第八條 當會社ノ株式ハ記名式ニシテ無記名式ト爲スコトヲ得ス

第九條 當會社ノ株券ハ壹株券拾株券ノ貳種トス

但拾株券ハ株金全額拂込濟ノ後發行スルモノトス

第十條 當會社ノ株金第貳回以後ノ拂込期日ハ取締役ノ決議ヲ以テ之ヲ定メ貳週間前各株主ニ通知スヘシ

但其拂込金額ハ一回毎ニ壹株ニ付金五圓乃至金貳拾五圓トス

第十一條 株金ノ拂込ヲ怠リタル株主ハ其拂込期日ノ翌日ヨリ百

圓ニ付一日金四錢ノ割合ヲ以テ遅延利息ヲ支拂ヒ且遅延ノ爲ニ

生シタル費用ヲ支拂フヘシ

第十二條 當會社ノ株式讓渡ノ場合ニ於テハ當會社ノ定ムル書式

ニ依リテ證書ヲ作り株券ヲ添ヘテ當會社ニ差出スヘシ當會社ハ

當事者双方ヲシテ株券裏面ニ署名捺印セシメ取締役之ニ証明シ

株主名簿ニ記入ノ手續ヲ了シタル上之ヲ還付スヘシ

第十三條 相續又ハ遺贈ニ因リテ當會社ノ株式ヲ取得シタル者証

明書ヲ添ヘテ名義書換ヲ請求スルトキハ當會社ハ前條ニ準シ名

義書換ヲ爲スモノトス

第十四條 當會社ノ株券ヲ毀損紛失又ハ滅失セシトキハ株主ハ其

事由ヲ詳記シ証人連印ノ證書ヲ差出シ新株券ノ交付ヲ請求スル

コトヲ得但紛失又ハ滅失ノ場合ニ於テハ其旨ヲ告示シ次年度利

益金配當ノ期限ヲ過キ尙發見セサルトキハ新株券ヲ交付スベシ

前項ノ場合ニ於テハ壹株券壹通ニ付金拾錢拾株券壹通ニ付金貳

拾錢ノ手数料ト公告料トヲ徴收スヘシ

第十五條 當會社株式ノ讓渡ハ毎年一月一日ヨリ定時總會終結ノ

日迄之ヲ停止ス臨時總會招集ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ臨時總會

終結ノ日迄亦全シ

### 第三章 役員

第十六條 當會社ニ取締役參名乃至五名監查役貳名乃至參名ヲ置

ク

第十七條 取締役及監查役ハ總會ニ於テ參拾株以上ヲ所有スル株

主中ヨリ之ヲ選任ス

第十八條 取締役ノ任期ハ三ケ年ト定メ監查役ノ任期ハ壹ケ年ト

ス

但滿期再選スルコトヲ得

第十九條 取締役又ハ監查役中缺員ヲ生シタルハ臨時總會ヲ招

集シ補缺選舉ヲ行フベシ其補缺員ハ前任者ノ殘期ヲ繼クモノト

ス

但法定ノ員數ヲ缺カサルトキハ現任取締役ノ決議ヲ以テ補缺

選舉ヲ延期スルコトヲ得

第二十條 取締役ハ互選ヲ以テ社長及專務取締役各壹名ヲ任定ス

但シ社長ハ都合ニ依リ任定セザラ<sup>ラ</sup>トアルヘシ

第廿一條 取締役在任中ハ其所有ノ當會社株式參拾株ヲ監查役ニ

供托スヘシ

### 第四章 株主總會

第廿二條 定時總會ハ毎年一月之ヲ開クモノトス

第廿三條 定時總會ニ於テハ決算及報告書ヲ調査シ且利益金配當

ニ係ル事ヲ決議スルモノトス

第廿四條 臨時總會ハ取締役又ハ監査役ニ於テ必要ト認ムルトキ

又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ヨリ總會ノ目的及其招集ノ

理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ請求シタルトキ之ヲ

招集スルモノトス

第廿五條 總會ノ招集ニハ會日ヨリ少クトモ二週間前ニ其日時場

所及目的事項ヲ各株主ニ通知スヘシ

第廿六條 總會ニ於テハ豫メ株主ニ通知シタル事項ノ外他ノ事項

ヲ議スルコトヲ得ス

第廿七條 總會ノ議長ハ社長又ハ專務取締役之ニ任ス若シ社長又

ハ專務取締役出席セサルカ又ハ事故アルトキハ他ノ取締役代テ

議長トナルベシ

第廿八條 總會ノ決議ハ法律ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外出席

株主ノ議決權ノ過半數ニ依リテ之ヲ爲ス若シ可否全數ナルトキ

ハ議長之ヲ決ス

第廿九條 總會ニ於テ決議シタル事項ノ要領ハ決議録ニ記載シ議

長之ニ署名捺印シ正本ヲ本店ニ謄本ヲ支店ニ備ヘ置クヘシ

第卅條 株主ノ議決權ハ壹株ニ付壹箇トス

第卅一條 株主自ラ出席スル能ハサルトキハ役員ニアラサル株主

ニ委任シテ其議決權ヲ行フコトヲ得

第卅二條 當會社ハ毎年一月ヨリ十二月迄ヲ以テ事業年度ト定メ

毎年度ノ末ニ於テ諸勘定ヲ決算スルモノトス

第卅三條 當會社ノ損益計算ハ毎年度ノ總益金ヨリ諸支拂利息諸

經費其他損失金ヲ控除シ其殘額ヲ純益金トス

第卅四條 純益金ハ左ノ割合ヲ以テ配當スベシ

一 純益金ノ百分ノ五乃至十 積立金

二 純益金ノ百分ノ十乃至十五 役員賞與金

三 右二項ノ金額ヲ控除シタル其殘額ヲ株主配當金トス

但計算ノ都合ニ依リ別種ノ積立金及次年度繰越金ヲ爲スコ

トアルヘシ

第五章 計算